

科目名 (科目番号)	神経系障害 基礎理学療法学 (062131)	教員名 桐山 希一	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			オフィスアワー		月	13:00～16:00 A308(桐山)	
授業概要	脳血管障害のリハビリテーションについて、まず評価や治療を実施する上で基本となる用語や症状を学ぶ。次に、理学療法の治療原則やリスク管理、合併症について学習する。そして、急性期から慢性期に至る各病期の理学療法の目的と流れを理解する。なお、脳血管障害の評価の基礎については「神経系障害理学療法評価学」ではなく、この授業で学ぶこととする。また、評価や治療の技術や演習については「神経系理学療法治療学」で実習する。						
準備学習	すでに解剖学や生理学で学習した内容を基にして講義をすすめる。講義を理解するために知っておかなければならない事項を項目ごとに確認していくので、理解が不十分な事項があれば必ず確かめること。授業のなかで指定した教科書の範囲は自ら読みこなしておくこと。臨床現場での実際の業務や今後の業界の状況を考えると、授業で扱う内容のみならず、専門書や文献などで視野を広げていくことをすすめる。						
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標				
	1	中枢神経障害の理学療法	学習目標:脳血管障害および神経障害に対する理学療法の概要を学ぶ。 到達目標:この授業で身につけたい知識の全体像を把握することが目標となる。				
	2	脳血管障害の特徴と治療	学習目標:脳血管障害の病態、障害の生じるメカニズムとその特徴的な症状について理解する。 到達目標:意識障害、運動・感覚障害、高次脳機能障害について専門用語を覚えること。				
	3	運動麻痺の把握	学習目標:Brunnstromの回復段階について共同運動、連合反応、分離運動、随意運動を理解する。 到達目標:これらについて理解することが目標となる。				
	4	脳血管障害急性期(1)	学習目標:リハビリテーションの開始基準、廃用症候群の予防、危機管理について学ぶ。 到達目標:実際の臨床場面での応用するための知識面の準備が目標となる。				
	5	脳血管障害急性期(2)	学習目標:神経筋再教育や呼吸・循環機能の維持、脳血管障害急性期の臥位～座位場面のPT。 到達目標:実習・演習を行うための知識面の準備が目標となる。				
	6	脳血管障害の理学療法 (回復期～維持期)	学習目標:バランス能力、基本動作から起居動作や歩行、ADLの評価・アプローチ方法を学ぶ。 到達目標:回復期における理学療法の治療理論と方法、またはその技術を紹介する。				
	7	脳血管障害患者の合併症	学習目標:肩関節亜脱臼、肩手症候群、深部静脈血栓症などの合併症について学ぶ。 到達目標:摂食・嚥下の基本的な機能と誤嚥性肺炎について理解し検査と評価方法を学ぶ。				
	8	症例検討	学習目標:実践的な知識へと結びつけるための学習の進め方を症例を通して学ぶ。 到達目標:この授業で学んだ知識を症例に則して考えられるようになることが目標である。				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
成績評価の方法・基準	期末試験の結果により評価(100%)する。						
教科書	『神経障害理学療法学 I』		石川 朗, 大畑光司, 玉木 彰 編集		中山書店		
参考図書	『脳卒中理学療法の理論と技術』 『脳卒中治療ガイドライン2015』		吉尾 雅春 他編 日本脳卒中学会 編		メジカルビュー社 協和企画		
教員からのメッセージ	確実に学習して欲しいポイントについては授業の途中で課題を呈示しますので、分からないことがあったら質問して下さい。 また、学習の仕方が分からなかったり、不明な点についても自分で調べたり、教員に質問するなりして必ずその都度解決して下さい。						